



あいさつや会釈が持っている力

世界に誇れる日本のサービス

30年前にロンドンで知り合った友人の息子さんが、ハネムーンで初めて日本にやってきました。我が家にも1泊し、日本に来て驚いたことを話してくれた。2人が特に驚いたのは日本人の心遣いとサービスだったという。ガソリンスタンドを出た後も礼をして見送られた。工事現場のガードマンが、人を行かせるときに深々と頭を下げていた。レストランでは常に声かけをするなど、とても丁寧なサービスなのに、チップを受け取らなかった。

日本人からするとごく当たり前のことだ。しかし、実にいかに相手のことを考えて行動しているかということに気づかされる。日本人が当たり前だと思うことも外国では当たり前ではなく、すばらしいことなのだと知り誇らしいと感じた。

朝日新聞 2015年6月21日「声」より

上の新聞記事から外国人にとって、日本人の「礼」がいかに印象深い行為であるかということが伝わってきます。この新聞記事に登場するイギリス人の息子さんも、ガソリンスタンドの従業員や工事現場のガードマンの「礼」という行為から「心」を感じとっているのではないかと思います。



6月のはじめに、萩市内のある中学校で校長の会議がありました。福栄中学校よりも生徒数の少ない学校です。会議が終わった後、何名かの他校の校長とともに校舎内を見学していると、特別教室での授業からそれぞれの学年の教室に戻ってくる生徒と廊下で出会いました。全員の生徒が私たちに「こんにちは！」と気持ちのよいあいさつをして、会釈をして通り過ぎて行きました。元気なあいさつプラス会釈をされると、伝わってくるものが明らかに違います。この福栄中学校がめざしていきたいものがこの中学校ではすでにしっかりと根づいているなと思いました。

「たかがあいさつや会釈ではないか」と思っている人がいたら、そのたかがあいさつや会釈をまず自分が毎日の生活の中で実行に移してみることです。あいさつや会釈は、人間の様々な行動を支える大切な土台になるものです。続けることで、必ず自分の心や行動によい変化が起こってくるはずです。自分から先に元気な「10mのあいさつ」そして「すれ違う際の会釈や人と目が合った際の会釈」、それが「山口県一の福栄のみ・そ・あ（あいさつと会釈）・じ」をめざす福栄中学校の生徒の「あたりまえ」にしたいものです。